

# 布施の心

8

本多 克也  
（読みも）

文・徳永 耕一

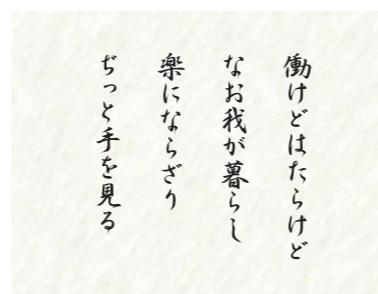
## 【挫折と帰郷】

一九五八年（昭和三十三年）には東京タワーが完成し、一九五九年には皇太子明仁さま（現上皇さま）がご成婚と、この時代は祝賀ムードに湧いていた。経済情勢も、一九五〇年から始まった朝鮮戦争による特需もあり、復興めざましく、ようやく戦後の混乱期を抜け出して、高度経済成長時代へと突入した。そして、経済白書にも書かれた「もはや戦後ではない」が、流行語にもなった。国民にもエネルギーがみなぎり、誰もが今より良い明日を信じて働き、「三種の神器」と言われるテレビ、冷蔵庫、洗濯機を、競うように買い求めた。

しかし、私は金欠病に喘いでいた。大学に入つてからは、少しでも家賃の負担を抑えるために、駒場にある大学の男子寮に移つた。

その頃は学生の間でダンスパーティーが流行つていて、男子寮に女学生がやって来てダンスパーティーが開かれることが多かったが、私には無縁のものだつた。私は、それを横目で見ながらバイトに明け暮れる日々だつた。生活費のほかに学費も稼がなければならず、羨ましくはあつたが、ダンスパーティーどころではなかつたのだ。ただひとつ楽しみは、寮の部屋で流行歌を口ずさむことだつた。東海林太郎の「赤城の子守唄」などをよく歌つた。戦後すぐに、日本の街角には流行歌が流れ始めた。戦後の生活の苦しさの中で、国民は歌に癒しを求めたのだ。私も、いつの頃からか、歌が趣味になつていた。質屋通いもした。大学の裏口にある質屋ではおじさんと馴染みになつて、「お金に困つたら何でも持つて来いよ」と言つてもらつた。

実際、他の質屋では受けてもらえないような服や布団ま



石川啄木の歌

2023年3月本多産業株式会社は  
設立50周年を迎えます。

 本多産業株式会社

【本社】神奈川県横浜市戸塚区戸塚町3814  
TEL:045-869-1133  
【長崎工場】長崎県雲仙市吾妻町布江名677  
TEL:0957-38-3520

で持ち込んだこともあった。石川啄木の歌に、「働くけどはたらけどなお我が暮らし樂にならざりちつと手を見る」というのがあるが、まさにそんな状態だった。

しかし、実は私はそれほど状況を深刻には考えていなかつた。「じつと手を見て」恨むわけでもなく、諦めるわけでもなく、与えられた境遇を運命として甘受して、なんとか局面を開しようとした前向きにもがいた。

それができたのは多分、化学が好きで、自分の道だと信じていたからだろう。それと、物事をあまりよくよく考えない私の性分があつたからだろう。とは言え、身体はきつかった。大学二年になると目に見えて体重が減り、疲れも残るようになり、ついに一年生の終わり、栄養失調で倒れて入院した。

「これ以上頑張つたら、身体がダメになる。身体がやられたら、元も子もない」

私は東京に来て以来、自分には身体だけが資本で、それしかないとを思い知らされていたので、学業へのやる気は十分残っていたが、一九六〇年三月、思い切つて大学中退を決心した。

大学事務局に退学届を持って行くと、過去の成績なども見ながら幹部らしい方が、「きみ、もつたいないね」と言って、引き止めてくれた。その気持ちは嬉しかつたが、「身体が持ちませんので」と言つて、一礼して大学の事務局を後にした。

中退の残念さは残つたが、しかし二年間の勉強期間は無駄ではなかつた。自分なりに、与えられた時間と環境の中で精一杯頑張つたし、化学の基礎は詰め込めたと思つ。

「いったん、田舎に帰ろう」

東京に来て足かけ五年、片時も忘れることはない故郷長崎だつたが、それはいつも遠くにあつた。今、急に目の前に故郷の色々なことが浮かんできた。